

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

研究期間:2020/12/01 ~ 2022/09/30 を 2020/12/01 ~ 2022/10/31 に変更

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):

後藤将史・神戸大学経済経営研究所・准教授

共同研究者(氏名・所属機関・職名):

なし

研究課題名:人工知能によるイノベーション実現に向けた業界組織化に関する事例研究

研究期間: 2020年 12月 1日 ~ 2022年 10月 31日

概要:(1,000字以内で記述)

本研究は、人工知能(機械学習等を用いたアルゴリズム)の浸透が、成熟した業界にどのような影響を与え、企業は組織の枠を超えてどのように対処するかを経営組織論の視点で解明する事例研究である。

Covid-19の影響の継続により、2021年度まで対面での調査や学会参加に制限のある状況となった。そのため、リモート等に対応できる手法を中心とし、下記三点に集中して研究を遂行した。

- ①業界横断での最新動向の文献調査
- ②事例研究(1):小売産業(一般社団法人リテール AI 研究会)
- ③事例研究(2):日本酒産業(①より伝統産業の重要性を発見し、その事例として選定)

本研究で得られた成果は以下の通りである。これらを活用し、発展的研究を継続していく予定である。

- ①主要業界での人工知能活用をめぐる動向を調査しデータベース化した。産業を横断した鳥瞰図を整理し、実務的示唆をディスカッションペーパーもしくは雑誌記事等で今後発信する基盤を構築した。
- ②小売産業での事例研究を継続し、成果を発信した(プロシーディングス論文・学会発表)。主な示唆は、企業の人工知能導入ではコンソーシアム形式のメタ組織が広く活用され、その理由は軽いコミットメントで多様な実験と情報収集が可能となり、また業界標準の試行も容易であることであり、AI時代のメタ組織の重要性を示した。
- ③日本酒産業を題材に文献研究を行い、初期的成果を発信した(学会発表)。主な示唆は、職人が減少する伝統産業では、(1)「職人」の機能を企業組織が包摂するハイブリッド化(官僚制組織と専門職・職業の混合)、(2)デジタル技術による伝統知識の伝承、の両面から知識伝承が維持される、伝統産業の新しい組織化を示したことである。

論文: 後藤将史.(2021).新技術の実装に向けた業界団体の活用:人工知能と小売業. 組織学会大会論文集 10(1), pp. 198-203.

口頭発表: 後藤将史.(2021).新技術の実装に向けた業界団体の活用:人工知能と小売業. 組織学会研究発表大会(6月6日オンライン).

Goto, M. (2023). From pre-modern guilds to hybrid innovator communities: The changing organisation of Toji (Japanese sake master brewer). Craft Workshop at Kyoto University (April 20-21, Kyoto, Japan).

* 研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します